

令和5年度大規模災害時の支援協力に関する連絡会（北薩ブロック）議事録

場 所：北薩地域振興局本庁舎 4階 第1会議室

期 日：令和5年6月6日（火）10：30～11：30

参加者：【北薩地域振興局建設部】9名

茅島建設部長

〔土木建築課〕寺園土木建築課長、市来技術補佐、吉田技術補佐兼道路維持第一係長

〔河川港湾課〕長崎河川港湾課長、〔出水市駐在〕松山参事

〔甌島支所〕迫田技術補佐、〔連絡会事務局〕石走技術調整係長、水口土木技師

【(公社) 鹿児島県測量設計業協会】14名

安永会長（㈱国土技術コンサルタンツ）、山内理事（㈱大進）

東（㈱みともコンサルタント）、原園・内野（東建測量設計(有)）、松ヶ野（(有)せいこう技研）

佐潟（㈱さこうコンサルタント）、森山・志比田（オリエントエンジニアリング(株)）

谷尾（永和測量設計(株)）

〔連絡責任者〕

（正）：出口（新和技術コンサルタンツ(株)）、（副）：深見・宮崎・宇都（㈱大進）

【(公社) 鹿児島県地質調査業協会】6名

梶原理事長（ユニオン技術(株)）、川邊副理事長（㈱植村地質コンサルタンツ）

宇都理事（㈱アーステクノ）、緒方理事（㈱日本地下技術）、松元理事（㈱ハウセイ・技研）

〔連絡責任者〕

赤崎（㈱アーステクノ）

会議資料：会次第及び災害支援協力連絡会 出席者名簿

資料1：協定書

資料2：連絡体制表

資料3：公共土木施設等の概要

資料4：協会資料



【議 事】

1. 開 会

(石走技術調整係長)

開会と司会進行を務める旨の言葉。

2. あいさつ

(北薩地域振興局 茅島建設部長)

皆さん、おはようございます。4月より建設部長を拝命しております茅島でございます。本日は協会の皆様方にはご多忙の中また足元が悪い中、この連絡会に出席していただきまして誠にありがとうございます。開催にあたりまして簡単ではございますが、ご挨拶申し上げます。

測量設計業協会、地質調査業協会の皆様方、かねてから本件調査業務を中心に多大なご協力、ご支援いただき誠にありがとうございます。この連絡会はですね、県と協会の皆様方とで大規模災害時におけます、県が管理する公共土木施設、これに被害が発生した場合に迅速かつ的確に情報交換し、状況を把握するために事前に連絡会をして、また支援協力費の今後等につきましてあらかじめ意見交換を行っております。各協会の皆様方にはこれまでも大規模災害時における早急な復旧、私共の要請にいただきまして二次災害の危険があるような状況の中で、被害状況の調査と真摯の原形復旧に対応していただきしております。最近では令和2年度、3年度本格的に大きな災害がございましたけれども、皆様方のご協力におけまして迅速に復旧することができました。本当にありがとうございます。さて、奄美の方は5月18日ごろ、九州南部は5月30日ごろに梅雨に入りました。先週には台風2号に伴います線状降水帯による降雨によりまして、愛知、静岡、和歌山等で甚大な災害が発生しております。この北薩地域もですね甕島沖で発生する線状降水帯の影響を受けやすかったり、あるいは紫尾山をはじめとする急峻な地形にのった気流に災害に対して脆弱な地形でございます。災害はいつ起こるかわかりませんし、台風や集中豪雨、地震、いろんな形で頻発している状況等もございますので、常日頃から大規模災害の発生にしっかり備えておかなければいけないという風に強く感じているところでございます。今日はこの連絡会の中でですねいろんな円滑な支援協力がいただけるよう意見交換をさしていただきまして、皆様よりは忌憚のない御意見をいただきたいと思っておりますのでどうかよろしく申し上げます。

(鹿児島県測量設計業協会 安永会長)

皆さん、おはようございます。常日頃協会会員のご活用にご配慮いただいておりますこと、またこの場の設営をしていただきました事、感謝申し上げます、ありがとうございます。部長のお話にございましたけれども、台風2号。2日だったんですかね。実は熊毛で連絡会を開催予定で今日ここで締めというつもりでございました。新聞社の人は締めのタイミングで来られるということでしたが、熊毛が伸びてございます。さっき話をしかただったんですけど、記事にもう済んだって書かないでくださいって。台風の2番目がもう来そうだということで、先程山内さんとも話をしたんですけども梅雨の間にこんな風にどんどん台風が来るっていうのはちょっと珍しいのかなと、自分の古い頭の認識では台風が8月9月だと、ちょっと心配をしております。ただまだ土が水を含んでないからもうちょっとは大丈夫なんでしょうけど、週末が大変なのかなという風に考えております。我々もあの災害対応講習会やら九地整とタイアップとなってるDX査定についての情報交換いろいろやらさせていただいております。部長もお話ございましたように、結局、職員、災害に携わる職員の二次災害というのが1番怖いわけですけども、その軽減がDXの主たる目的だと九州地方整備局の方たちは仰ってますのでその言葉を信じて我々も一生懸命それに向かって取り組んでいく所存でございます。今日はまた実りのある対話になりますようにどうぞよろしく申し上げます。

(鹿児島県地質調査業協会 梶原理事長)

みなさん、ご苦労様です。私は鹿児島県地質調査業協会の理事長をしています梶原です。皆様には日頃から会員への格別のご高配を賜っております、改めて御礼を申し上げます。ありがとうございます。平成27年当協会は鹿児島県と、大規模災害時の支援協力の協定を締結しました。その後、国交省や鹿児島市と同様な協定を締結しております。「天災は忘れた頃にやってくる」と寺田寅彦の警句が関東大震災時に発せられたと聞いております。鹿児島においては8.6水害がおきて30周年になると報道されています。我々年配者にとってはその当時のいろいろなことがあったことを昨日のように思い出されます。しかし、若い人にとっては想像でしかできないことでしょう。災害時対応の継承がますます必要となっております。当協会は地域のジオ・ドクターとしての役割を深く認識し、素早い行動を心掛け、災害に強い鹿児島を目指す貴土木部との連携を密接に行い、技術の向上に取り組んでいく覚悟です。

当協会は比較的小さな団体ではありますが、基本的には協会員全員での対応を方針としております。今日、この連絡会が充実した有意義なものになることを願い私の挨拶といたします。

3. 打合内容の資料説明

(石走技術調整係長)

それでは、資料1の協定書及び連絡体制及び参考資料について北薩地域振興局からご説明申し上げます。

- 資料1：協定書 の説明
- 資料2：連絡体制 の説明
- 資料3：公共土木施設等の概要 の説明

それでは続きまして、測量設計業協会から資料2の連絡体制また資料4に関する説明をお願いします。

(鹿児島県測量設計業協会 山内理事)

- 資料4：協会資料 の説明 (12ページまで)、資料2：連絡体制の説明

(鹿児島県地質調査業協会 川邊副理事長)

- 資料4：協会資料 の説明 (13～20ページまで)

(鹿児島県地質調査業協会 宇都理事)

- 資料4：協会資料 の説明 (21ページから)

4. 意見交換

(石走技術調整係長)

続きまして、意見交換会に入ります。

説明事項等も踏まえてこの場で確認しておきたいことがありましたら、よろしくお願いします。

(鹿児島県測量設計業協会 安永会長)

私の方からいろいろいいですかね。要請があった時の協会側の対応として基本的には前年度くらいから要請があった時には対応ができますよと手を挙げてる会社には確認の上、全社いれます。

これは先程話しましたように、7日間のなかで対応するため実質3日くらいなんですよね、こっちが動けるのは。それだったらもう安全確保のためにも行けると回答した会社は全部行く、早く済ませようということをやります。それで要請されるときには、もう細かい破堤の河川が多いと思うんですけど、細かいのを一本一本こうなるとこじゃなくて、もう地域で区域で要請していただければと、我々も実際被災のある中をそれで割り振りますので。それが無いとかわいそうじゃないというのはありがたい話なんですけど、なるべく概要をお知らせいただければ地元の人たちをメインに被災状況・被災がかなりひどいところに入れて、そのほか全部調査させますので。県の方の総合評価の取り扱いで、県との災害協定に参画したことがあるかどうかというのが加点の要素になりましたから、過去5年遡ってですね、そうすると我々も全員入れるという名目はつきますのでそうさせていただければと思っています。

あとDX査定の話はですね、正直言って今まだDXで査定をする、安全にという範囲です。

例えばこの地質調査業協会の写真を見てたんですけど、かなり危ない作業をしてますよね。これは実際作業されるときには査定される人たちはここにはいられますよね、ポールを持ったりテープを張ったりで今はその写真であげればいいじゃないかって。この自分が立っている足元がどうなっているのかは正直言ったらわからんのですよね、ハングがある可能性も結構あるわけですよ、当然災害ですから。そういう時に調査者の安全を確保するために例えば360度カメラで撮ってこん中を状況確認するとか、iPhone Proを使用して代替機を使用して点群データを取得するとか、というようなことに一生懸命支援の方は特化されておりますので、まず査定からかなという風に思っております。先ほど山内社長も申しました、さつま町の査定時の実証実験、査定が済んだ後にDXでやったらどうかと実証実験をされたんですけども、そんなときには財務と農政も一緒に立ち会ったということですのでそこら辺の話は調整がついてるのかなって、同じ年に天草までやっておきたいですし、去年ですかね宮崎でもそういう対応されてますので、だんだん査定のほうはそういう流れになりつつあるのかなと、査定に行ってけがをしたっていうのはだんだんなくなる。いっぱい写真見たんですけどね、結局護岸が崩れたところに行ってからにポールを立てたりですよ、そういった写真をいっぱい見せていただいたんですけど、それとかもなくなることはないし少なくなるっていう風には考えてございます。

(鹿児島県測量設計業協会 山内理事)

ちょっといいですかね。今災害が本当に多種にわたって災害が起きているのが現実で、わが社でも相当安全対策は考えて動くんですけどもやっぱり雨の災害と地震の災害はまるで違うんですよ。地震の災害の時には本当に命がけっていう感じなんです。実際に調査に入ってから余震がきて、上の石が降ってきたこともありますし、そして両方車の後ろ前が土砂で埋まって動けなくなったこともあります。やっぱりそういう時でもう現場判断なんです。我々もわからないしどういう風に判断するのか、そういう時、役所はどういう指示を、やれ行けどんじやなくてそういう時っていうのは、役所は命令を出してもらいたいんですよ。

実際は余震が来る情報を見て、災害調査に入ってから危ないなというときは退避命令ですよ、そこら辺をよく話しかんといかんというのを北西部地震の時も感じました。実際に出水の土石流の時もかな、なぜかわからないけどうちは死亡者が出た現場が結構多くてですね、そういう時って社長としてどうしたらいいのかって結構迷うことってありますね。そんな時にやっぱり中止命令を出していただきたい。

(鹿児島県測量設計業協会 安永会長)

ちょっと難しい話になるかもしれないですけど、山内さんが仰ったのは、現実的な問題としては例えば今の梅雨時ですよ、梅雨の途中で雨が降った被災をした要請がきた測りに行こうという段取りをするでも雨が續いてる、被災が二回目も来る可能性があるときの対応は難しいとこありますよね。そこは微妙かなと梅雨の間で、これは梅雨が終わる間際だったらあがるわけですからある程度はこっちも…してかかればいって話なんですけど。

(茅島建設部長)

私からいいですか。災害の調査をしていただくうえでは二次被害を受けないということが大前提でそこは一つ共通認識を持っているんですけど、私たちの方としても皆さんの安全を第一に考えて調査していただいておりますので、調査の指示をお願いするうえではそういった風に今おっしゃったように情報をしっかりと入る前に共有させていただいて、ここまでだというそういったのを私たちも考えたいと思いますし、私の経験から行くと18年の県もそうでしたし奄美大島の方の河川課にいて、ちょうど河川の氾濫調査を協会の方をお願いしたんですけど、いちばん最初にそういう調査のやり方とか現場の状況とかをしっかりと集まってやらせていただいているので、それをすべての現場にできるかっていうのはやっていくうえでお互いがちょっと身に着けていかなくならないのかなと。逆に私たちは内部的に伝承をしないといけないというのがあると思いますのでそこはそういう形で。

あとあのDX、現場の道具を削減するのと安全管理両面でかなり活用されてますけど、今実際に災害調査でDXに使えるような機器といったのは改めて購入といったのはそういうのは必要ないということですか。

(鹿児島県測量設計業協会 安永会長)

DX推進室が取り組んでおられるのは、二次製品の機械を使用して今あるやつというのが微妙なとこなんですけど、例えば360度カメラ、これ10万ちょっとですよ。でiPhoneだったらProでライダー機能付いてますのでこれは20万ちょっとじゃないですかね。だから単品でもそんなにお高くないのかなと、普通の測量機器と比べたら全然安いと思いますし、iPhone Proは持っている方も結構おられますけど360度カメラはなかなか持ってないですからね、いまは協会の会員もドローンにしる、レーザーの測量機器にしる、ある程度の機器は揃ってますので、完全とは言わないまでもある程度のご期待には応えられると思っております。

協会も協定結んでから15年ですよ。ある程度あせせんないかんこうせんないかんというのは毎年講習会もしてますし、安全講習を必ずしてるんです。それを受講したものじゃないとその年度は参加させないという仕組みにもしてございますので、危ないところには行くなと散々言ってございますので申し訳ございませんけど。

それと例えばドローンとか360度カメラとかいろんな機器を使って確認作業とかは安全に。協定の中では基本的には大規模災害が発生したときに被害状況の確認がメインですから、その後の随意契約していただいておりますけど仕事とは別ですので今日はそこまでは心配することはないと、

ただその被災した所に入らなきやいかんという時の天候の状態、それとなんか知らんですけど土日に来るもんですから災害は。そこら辺の対応、その辺りだけが気になるところではありますけど。あとは安全には十二分に注意するようにこちら側も気を付けてございます。

先ほど申し上げましたように被害が出ているところは全部入れるという風にしてしまえば途中で中身が増えてもそんなに慌てることもなく、無ければ無いでいいくらいの形でやっていくのと、こちら側も使命感が少しは軽減されて無理もしなくてもいいようになるのかなという風には思っています。

(茅島建設部長)

基本的に国も県も市も全滅に近いような状態でなければ、どういう風に割り振りするとか、お互いに調整が必要になりますね。

(鹿児島県測量設計業協会 安永会長)

現実的な話ですね、国はですね実績ございますよね。ここだったら川内川河川、災害時の協定を結んでございます、それはそのまま入ってそのまま契約になるような仕組みでございます。

県の土木はこの協定で今までそんなに問題になかったんでございます。問題は、市町村です。市町村はですね難しいですよ、やはりお世話になったところを優先ですよ。どこもそうだと思います、そんなに人的余裕があるわけでもないですし、このような経済状況でそういう余裕をもって経営してるわけでも無いですから、やはり普段日頃お世話になっている、例えば指名をいただくとかそういったところが自然と優先になっちゃいますよね。それと一番大きなのは業界内で情報は走りますので特に農政なんですけど、あそこの農政は一山いくらだったという取り扱いをされると誰もいかないですよ。そうすると結果的に県の土地改良の方に要望がいたりとか、それでも揃わなければ知事の所についてというのが実際ありますので、この前は宮崎でもそれがありませんでした。自治体の市長さんのそこら辺の認識だと思えますけど、もう昔とは違って我々もそんなに体力があるわけではないですので、やはりそのきちんと代価をお支払いいただくところを、しょうがないですねこればかりは、ここがいくらで違う所には申し訳ないけども他に行かないといけないところがいっぱいありますと今のところはなります。

(茅島建設部長)

私たちが管内の市町村と協議するところがありますから、みんながWin Winになるようにですね、対応をしてみたいです。

(鹿児島県測量設計業協会 安永会長)

これはいろんなところで同じお願いをさせていただいてるんですけども、具体的には県内の市町村に最低制限制度を入れてくれっていう話をずっとしてました。それと〇〇制度の活用、おかげさまでかなり土木を部長さんとか域内での会議があるわけで、そんな時にいろいろ話をしていたみたいで4月から全市町村で各県内は最低制限制度も入れていただきましたし、〇〇制度の活用もなりました。あとは災害時の歩掛だけです。

大きな災害を受けたところはですねやはり皆さんその認識を改めてほとんど土木なり農政部なりの歩掛を採用されるようになってます。まだ一部ではありますけどまたそこはそういった会議の時にでもそういうことですよと実際普段が大事ですよという話をさせていただけると我々は非常にその時にはやりやすいという風に思います。よろしくお願ひします。

5. 閉会あいさつ

(寺園土木建築課長)

本日はこのような集まりの中で、連絡体制の確認や支援協力の方法など確認できて、いろいろ意見交換ができたことはよかったなと思っております。

今回の協力会は、これで終わりますけれども、またこうやって顔を合わせて話し合いができればなと思っております。

本日の会は、これで終了させていただきます、本日はどうもありがとうございました。

以 上